

令和元年度津久見市観光戦略の事業進捗と成果・課題

令和3年 3月
大分県津久見市

1. 総括

本市は、平成29年3月に、市の観光振興に向けた取組戦略について、津久見市観光戦略会議を通じて「津久見市観光戦略」（以下「戦略」という。）を策定し、戦略目標として「観光を通じた地域産業の振興と地域の活力創造」を掲げ、目標値である「観光消費による経済波及効果約24億円（令和3年度）」「観光入込客総数約60万人（同上）」の達成に向け、戦略に掲げる各種取組を計画的に推進している。

本戦略の3か年目である令和元年度の進捗状況は、全25施策中「達成」が7施策（平成30年度は9施策）、「一部未達」が14施策（同11施策）、「未達」が4施策（同5施策）、「未着手」が0施策（同0施策）であった。平成30年度と比較すると、「達成」が9施策から7施策へと減少しており、施策毎に事業進捗の濃淡がある。計画当初との状況変化や新たな課題が生じたもの、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けたものがある。本戦略の中核である集客交流拠点整備に向けた計画は、遅延しつつも着実に進ちょくしており、開業に向けて、観光商品開発や体制強化なども着実に進める必要がある。また、今後は、新型コロナウイルス感染症拡大による影響にも留意する必要がある。

「基本方針1“津久見ならではの”の景観形成と集客交流拠点の確立」では、戦略の中核である、「施策01広域周遊観光客も“気軽に立ち寄れる”集客交流拠点の整備と運営体制の検討」において、拠点整備に向けた基本構想（令和2年3月）を策定した。今後は並行して進められている市中心部のランドデザイン構想、市庁舎建設計画との一体的整備も見据え、整備実現に向けて、着実に計画を進める必要がある。

「基本方針2“全国に誇る”地域産業との連携による観光商品開発と市中心部の賑わい創出」では、保戸島の島民主体による「わくわく会議（保戸島の魅力を生かしたツーリズム促進事業）」やイベント開催、新メニュー考案など、島おこしに向けた取組が加速しており、今後の商品開発が期待されている。市中心部では、集客交流拠点整備を見据えつつ、農漁業の六次化、商店街の振興を目指して「つくみ軽トラ市」を複数開場で開催したほか、創業支援補助金等を通じて、新規創業者が増加傾向であり、今後も、取組を継続することが重要であると考えている。



〒879-2435 大分県津久見市宮本町20番15号
Tel:0972-82-4111（代表） Fax:0972-82-9520

「基本方針3 “オール津久見” による観光推進体制の確立」では、津久見市版観光 DMO・地域商社機能構築のため、津久見市観光協会に配置2年目となる、(公財)日本交通公社の研究員(津久見市観光 DMO 推進コーディネーター)を中心に、市内事業者との官民連携事業や、産学官連携による事業などが展開された。

津久見くらしの体験博覧会「津っぱく」を中心にプログラム作りや人材育成が継続的に図られた。また、津久見ファンの拡大に向けて、ふるさと納税のPR動画を制作し、多くの反響を得た。

【津久見市観光戦略 事業進捗と成果・課題の取りまとめ経緯】

- ・平成31年4月～令和2年12月 関係各課によるとりまとめ
- ・令和3年2月1日～2月末 津久見市観光戦略会議(書面報告・とりまとめ)
- ・令和3年3月 津久見市議会報告

2. 今後の展開～観光戦略実現に向けて～

地方創生推進交付金を活用した各種事業は、「稼ぐ力」が創出され、将来的に交付金に頼らずに自走していくことが重要である。

自立を図るバロメーターとして、観光入込者数、観光消費による経済波及効果、食観光の売上金額等を掲げている。しかし、夏期繁忙期休日が総じて荒天(台風等)となったことや、冬期繁忙期の2月の河津桜シーズンに新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、観光入込者数が目標を大きく下回り、食観光の売上金額、観光消費による経済波及効果も目標未達となった。

強固な地場産業である「石灰石・セメント産業」を擁する本市において、観光とこれらの産業との関係を構築・強化することが、当地域の持続的な振興や、しごと創生、観光産業の育成に資すると考えられる。

また、コロナ禍においては、観光施設、宿泊施設、飲食店等が、連携して「新たな生活様式」に適応し、新たな販路開拓、商品開発等にとりくむため、リーダーシップや地域マネジメントを含めた観光 DMO 機能を発揮する必要がある。

一方で、津久見市観光戦略に基づく、令和元年度の事業進捗は濃淡があり、観光戦略に基づく取組を進める中で、計画以上の進展があったもの、困難性が高いことが明らかとなってきたものがあり、年度末から影響のある新型コロナウイルス感染症拡大の影響について十分に注視しながら、適宜、計画や目標(指標)を見直すことも検討すべきであると考えられる。

今後、計画や目標(指標)を見直すことも検討しながら、観光戦略を着実に進めると同時に、本戦略は幅広く市民全体に周知することが重要であると考えられる。

(参考資料1)

津久見市観光戦略の計画監理サイクルについて

本戦略は、計画→実行→評価→改善のいわゆるPDC Aサイクルに基づいて推進していく。事業の評価・検証は、毎年度の進捗や目標達成状況について、事務局及び事業実施主体にて1次評価を実施し、さらに2次評価として、津久見市観光戦略会議及び津久見市議会（書面報告）にて報告・審議を行い、その結果を津久見市公式ホームページ他で公表する。

さらに、第5次津久見市総合計画、まち・ひと・しごと津久見市総合戦略との整合性を図り、津久見市まち・ひと・しごと創生本部への報告・協議も行う。なお、計画期間の最終年度には、全体を総括した上で次期計画の検討を行う予定である。

	具体的な行動内容
計画	<ul style="list-style-type: none">事業計画の立案<ul style="list-style-type: none">➤ 部署横断による連絡会議等の随時開催➤ 横断プロジェクトの積極的な検討・実施 他
実行	<ul style="list-style-type: none">事業計画に基づく実行津久見市観光戦略会議及び津久見市全員協議会における中間報告、評価等のフィードバック・改善
評価	<p>【1次評価】</p> <ul style="list-style-type: none">事業成果・課題の年間評価（事業実施主体における自己評価）<ul style="list-style-type: none">➤ 本戦略のK P Iである観光客数及び観光消費による経済波及効果を用いた客観評価➤ 各事業目標等に対する評価（※可能なものはR E S A S他の各種客観データを活用して定量評価を実施） <p>【2次評価】</p> <ul style="list-style-type: none">津久見市観光戦略会議への報告・審議津久見市議会全員協議会への報告・審議津久見市まち・ひと・しごと創生本部への報告・協議 <p>【取りまとめ・公表】</p> <ul style="list-style-type: none">評価の公表（津久見市公式ホームページ他）
改善	<ul style="list-style-type: none">関係各課の事業計画へのフィードバック、改善

※津久見市観光戦略会議について

津久見市観光戦略及び観光振興に必要な事項を審議することを目的として、津久見市が設置する会議で、津久見市、大分県、ツーリズムおおいた、津久見市観光協会、津久見商工会議所等の商工団体、交通事業者、観光事業者、まちづくり団体、第一次産業関係者、民間企業、金融機関、報道機関など多様な関係者で構成している。